

こどもの病気対策法^{⑫5}

—RSウイルス感染—

小宅医院 小 宅 民 子

RSウイルスは冬に流行する乳幼児に代表的な呼吸器感染症です。生後1歳までには半数が、2歳までにはほぼ全員が感染するといわれています。しかし、一度RSウイルスにかかったとしても、一生涯の免疫が得られるわけではありません。

感染経路は、くしゃみや咳から飛び出したウイルスを吸い込むことで感染する「飛沫感染」、唾液や鼻水がついたものを触ることでうつる「接触感染」があります。

潜伏期間は4～6日で、発熱、鼻水、咳などの症状があらわれます。ほとんどは軽症ですが、咳がひどくなる、ゼイゼイ、ヒューヒューいう、呼吸困難になるなど症状が悪化し、肺炎や細気管支炎になることがあります。乳児や心臓・肺の病気を持つ子ども、ダウン症の子ども、早産児、免疫不全の子どもなどがRSウイルスに感染すると、さらに症状が進行し重症化する危険性があります。

鼻の奥を綿棒でぬぐった液や鼻水を吸い取って検査することで、すぐにRSウイルスに感染しているか調べることができます。ただし、この検査を1歳以上の外来患者さんに行うことは健康保険で認められていません。

RSウイルスに対する特効薬はなく、基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。水分補給、睡眠、栄養、保温などに気をつけ、安静にして回復を待ちます。

RSウイルスは感染力が強く、保育園や幼稚園などで流行しやすいため予防が重要です。マスクの着用や、手洗い、うがい、子どもが触れるおもちゃやドアノブなどはこまめにアルコール等で消毒しましょう。



RSウイルス感染症の5つのポイント

- ・ 症状は発熱、鼻水、咳など
- ・ 悪化すると肺炎、細気管支炎になることがある
- ・ 重症化しやすいのは、1歳までの赤ちゃん

心臓や肺の病気を持つ子ども

早く生まれた子ども

免疫力が弱い子ども

- ・ 特効薬はない（水分補給、安静が重要）
- ・ 予防は手洗い、うがい、アルコール消毒

